

# グラフで見る関西経済 (2020年4月)

2020年4月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

# 今月の景気判断 ~新型コロナウイルス感染症の影響で悪化している

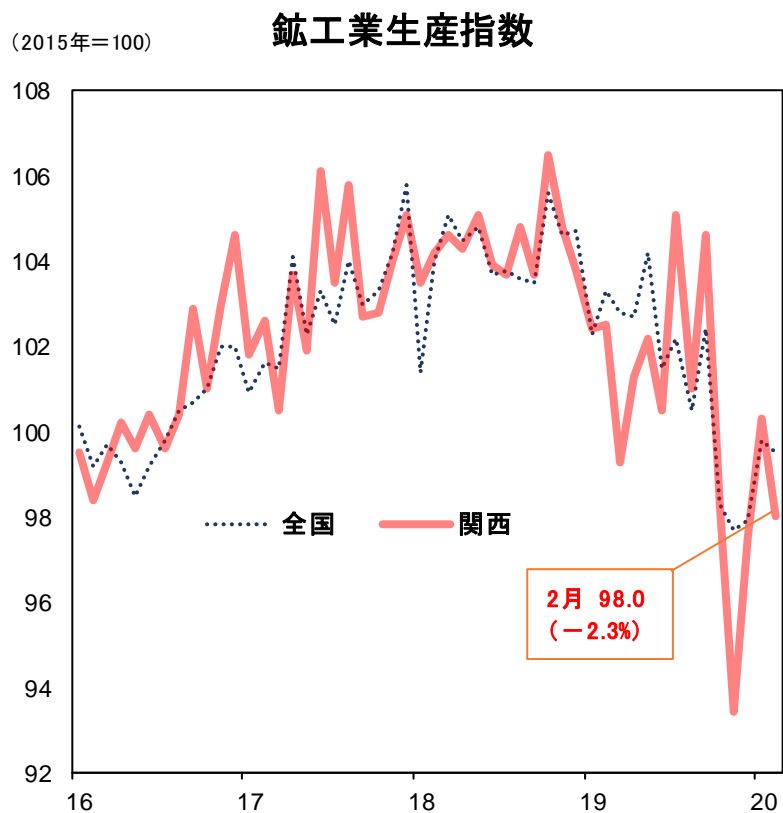
## 【今月のポイント】

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛等の影響で、景気は悪化している。
- 本稿のデータは3月及び2月の数値のため、コロナ感染症の影響をまだ十分には反映していない。しかし、日銀短観3月調査では業況判断が「悪化」超に転じ、景気ウォッチャー調査の現状判断もリーマンショック時を下回る水準まで急落している。
- 輸出、生産関連の指標は2月、3月時点ではそれほど大きく悪化していないが、今後はさらに厳しい状況が見込まれる。
- 訪日外国人旅行者の激減で、3月の百貨店免税売上高は前年比9割減に。百貨店売上全体でも同4割減。スーパーなど「巣ごもり」関連の需要は強いが、消費全体ではサービスを中心に今後も悪化が見込まれる。

項目	現状
景気全般	新型コロナウイルス感染症の影響で悪化している
生産	減少している
輸出	弱含んでいる
設備投資	増加基調
雇用	横ばい圏で推移
賃金	弱含んでいる
個人消費	新型コロナ影響による下押しがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移
公共投資	前年比で増加

# 生産

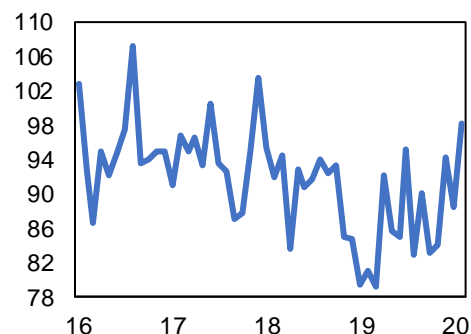
2月の鉱工業生産は前月比-2.3%と2ヶ月ぶりに減少した。汎用・業務用機械、化学(除医薬品)、輸送機械などが前月比で減少した。当面は新型コロナウイルス感染拡大の影響で低迷が続こう。



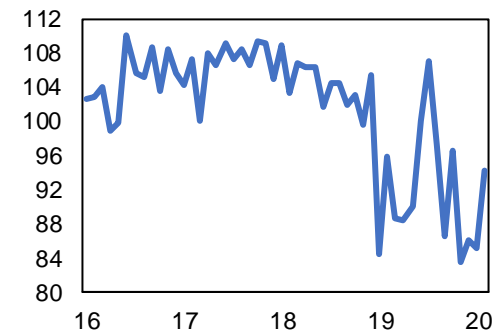
(出所) 経済産業省、近畿経済産業局

(年、月)

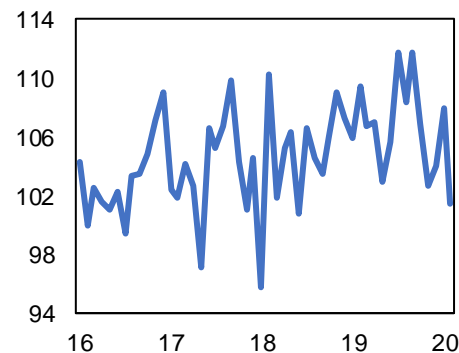
### 電子部品デバイス



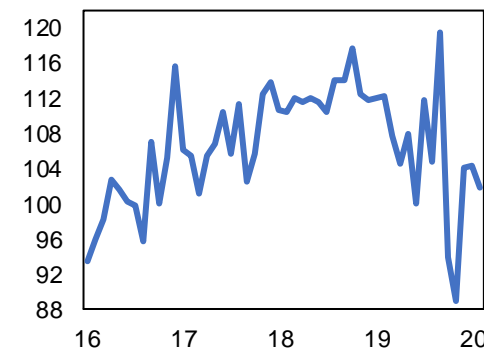
### 電気機械



### 化学



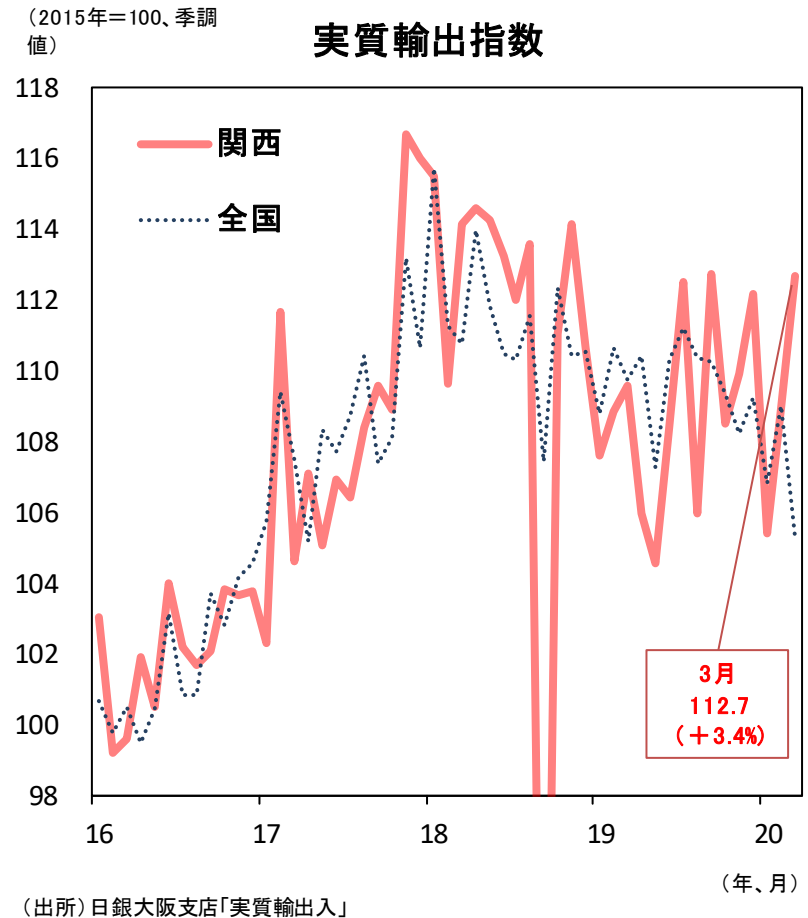
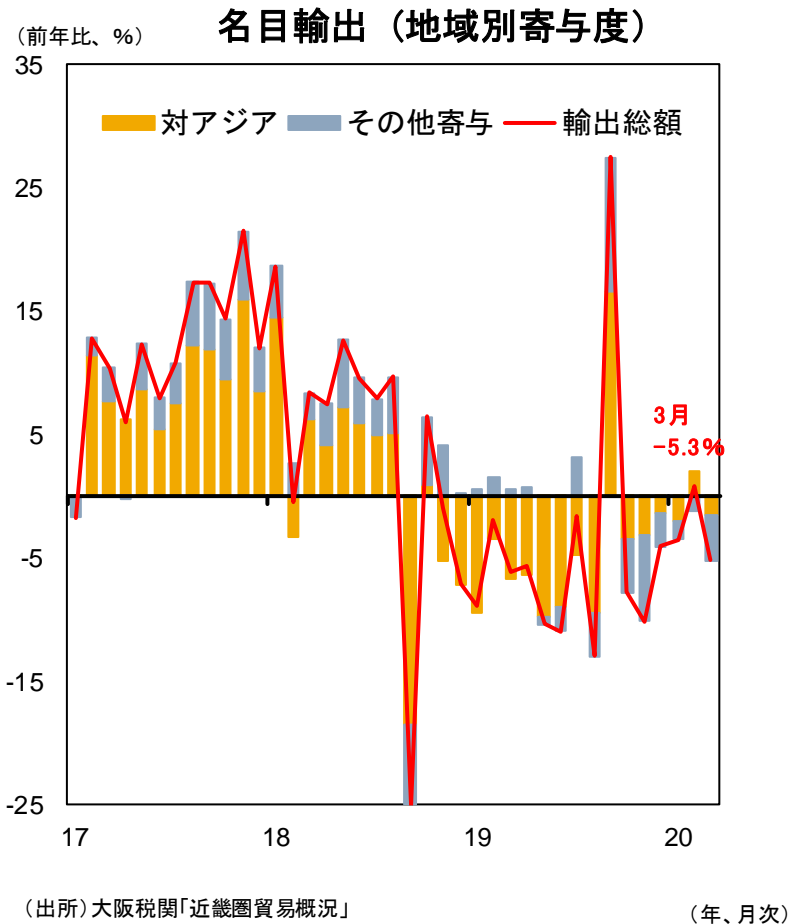
### 汎用・業務用・生産用機械



# 輸出

3月の名目輸出額は前年比-5.3%と2ヶ月ぶりに減少、アメリカ、EU、中国、アジア(含む中国)がマイナス寄与。品目別には、半導体電子部品が増加となる一方、建設用・鉱山用機械が減少した。

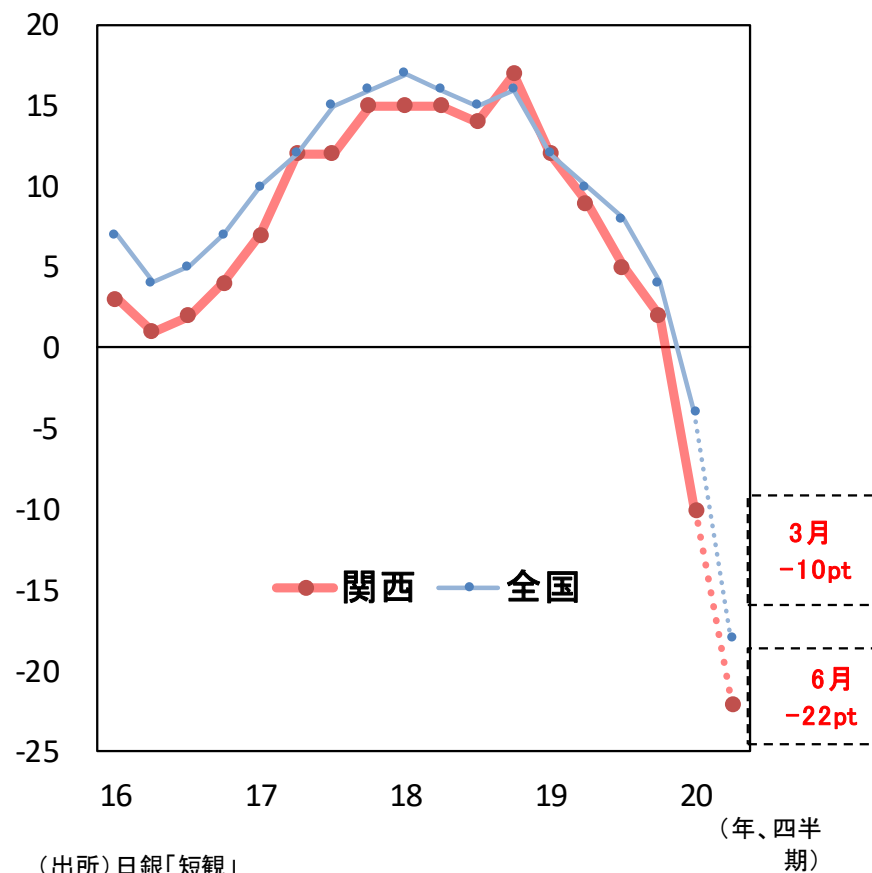
3月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比+3.4%と2ヶ月連続で上昇した。



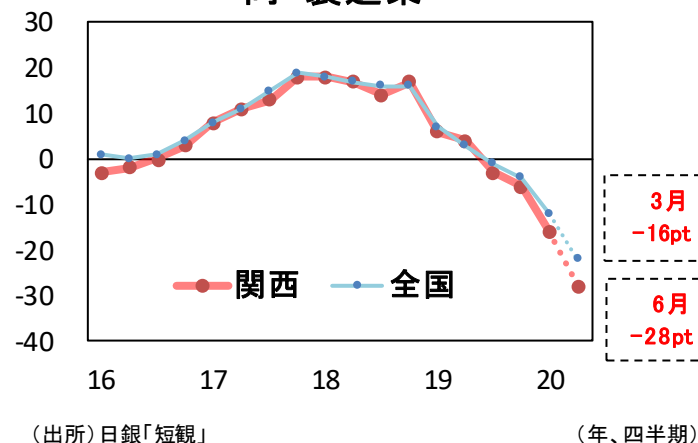
# 企業景況感(日銀短観)

日銀短観3月の業況判断DIは全産業で-10ptと12月から大幅に悪化。製造業は-16pt、非製造業は-3pt。先行き(6月)についても、全産業、製造業、非製造業、いずれも悪化が見込まれている。

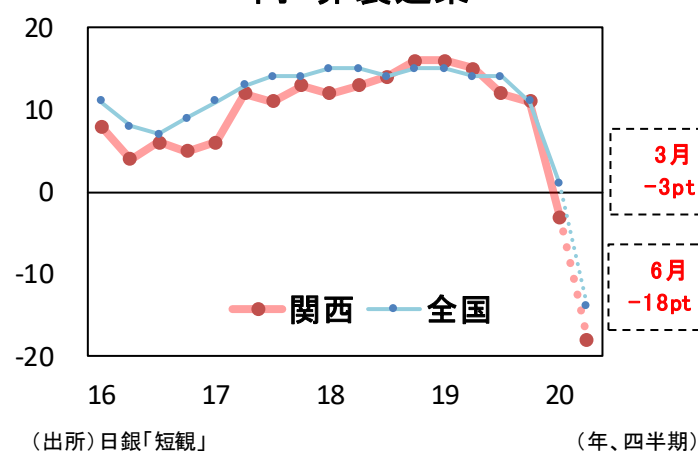
## 短観 業況判断DI「全産業」



## 同 製造業



## 同 非製造業

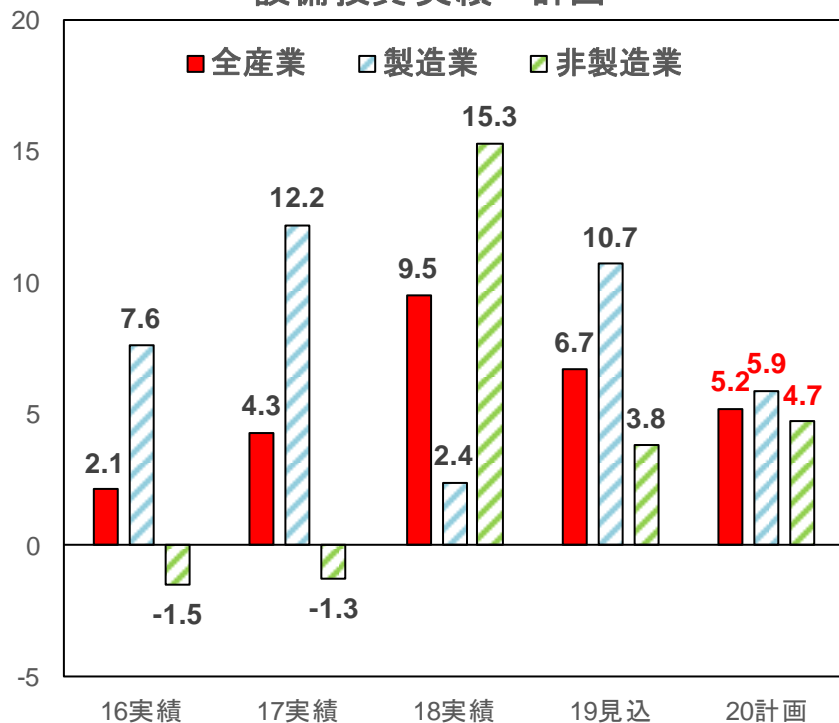


# 設備投資

日銀短観3月調査によると、19年度の設備投資は上方修正。12月調査比で製造が下方修正、非製造(対事業所サービス、宿泊・飲食サービス等)が上方修正となった。20年度は全産業、製造、非製造いずれも前年比増加を見込む。

(前年比、%)

### 設備投資実績・計画



### 設備投資額(前年比%)

	18年度実績	19年度計画		20年度計画
		今回	12月調査時 [差異]	
全産業	9.5	10.6	6.7 3.9	5.2
製造業	2.4	8.1	10.7 -2.6	5.9
非製造業	15.3	12.4	3.8 8.6	4.7

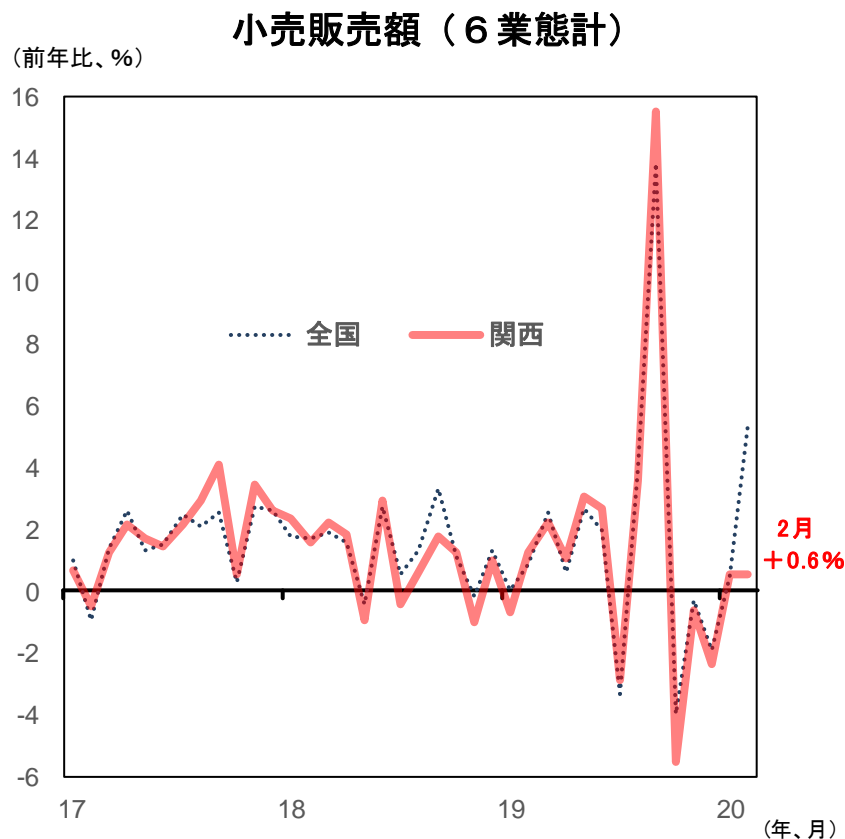
(出所)日銀大阪支店「短観」

(年度)

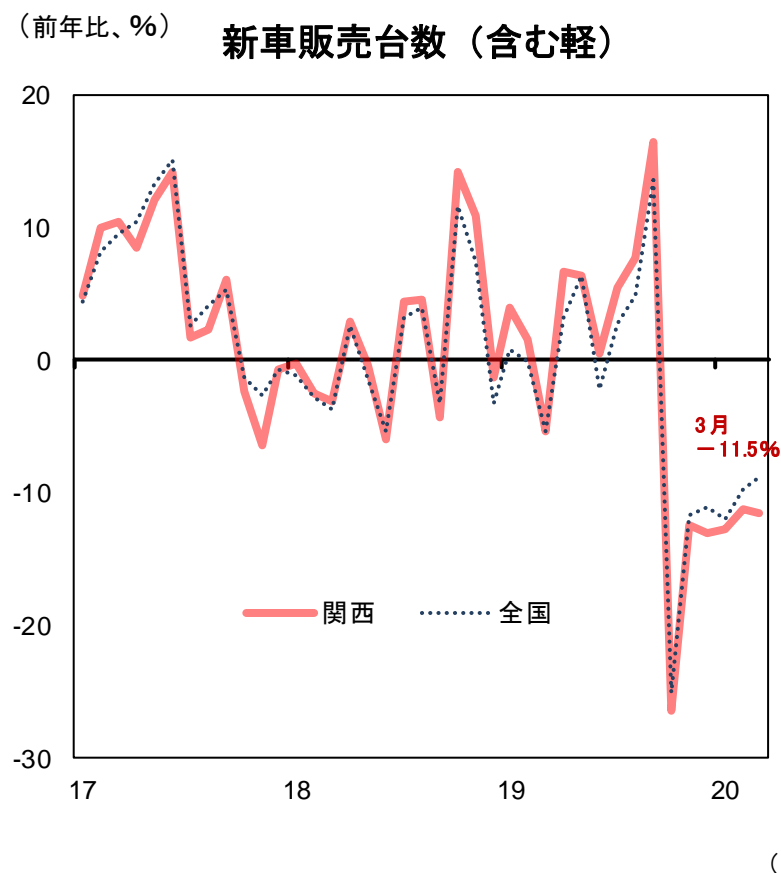
## 個人消費(小売売上、自動車販売)

2月の小売販売額は、前年比+0.6%と2ヶ月連続で増加した。今年がうるう年で休日の日数が増えたこと、コロナ感染拡大による買いだめの影響でドラッグストア等が伸びたことが影響した。

3月の新車販売は、コロナウイルス感染症の影響もあって、前年比-11.5%と、低迷が続いている。



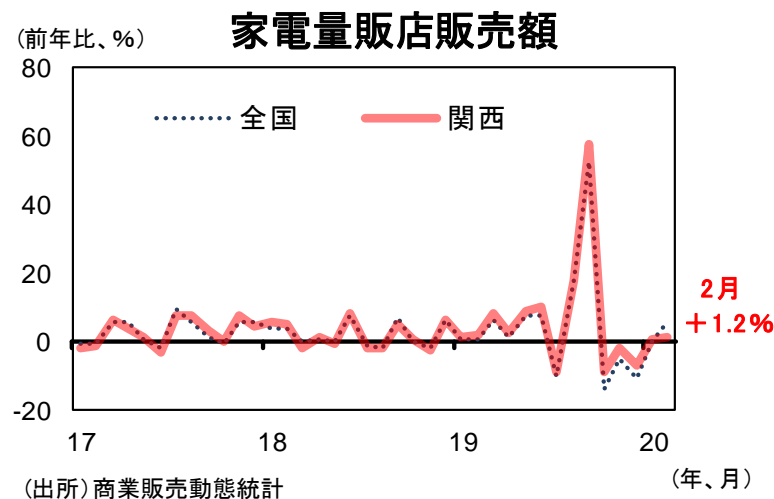
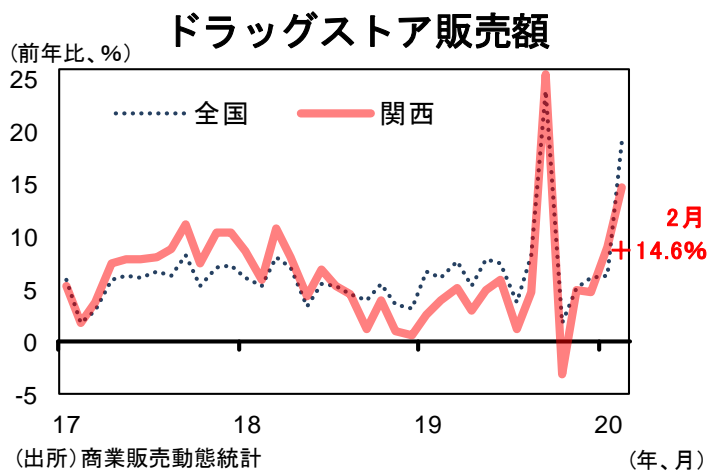
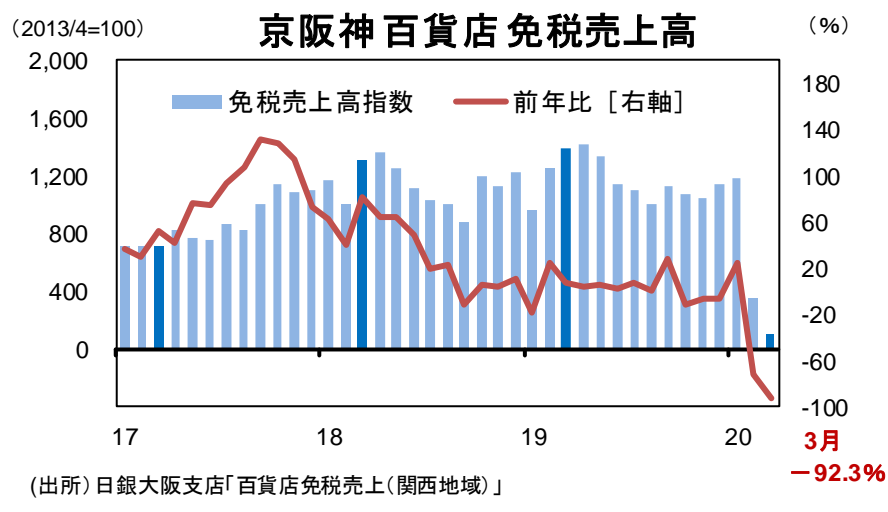
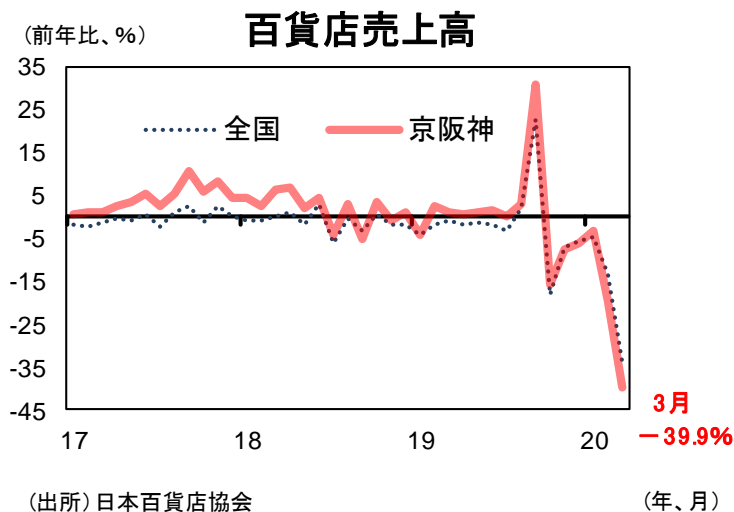
(出所) 商業販売動態統計  
(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計



(出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

# 個人消費(業態別)

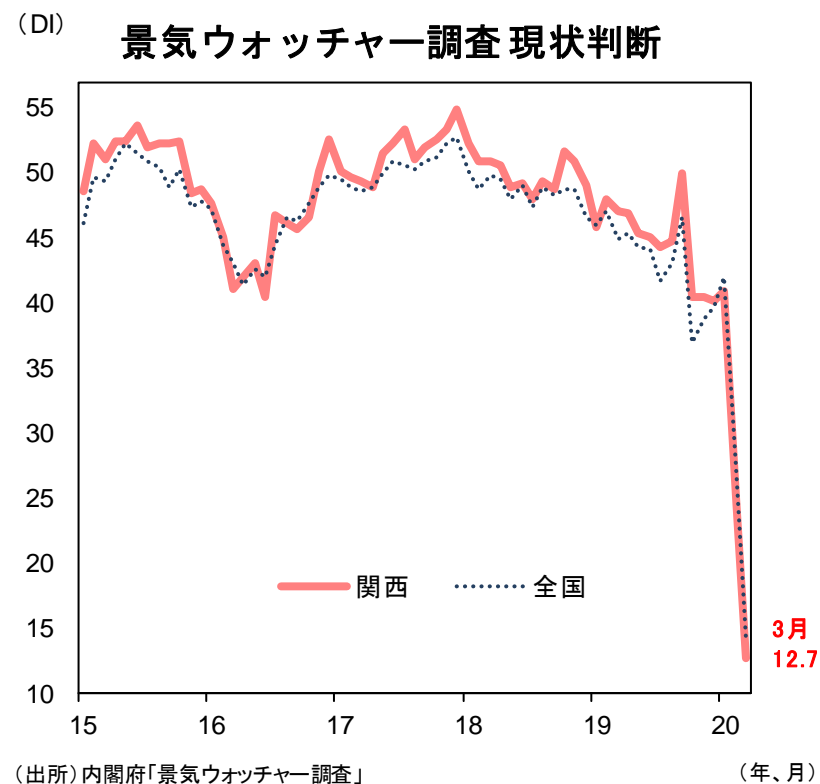
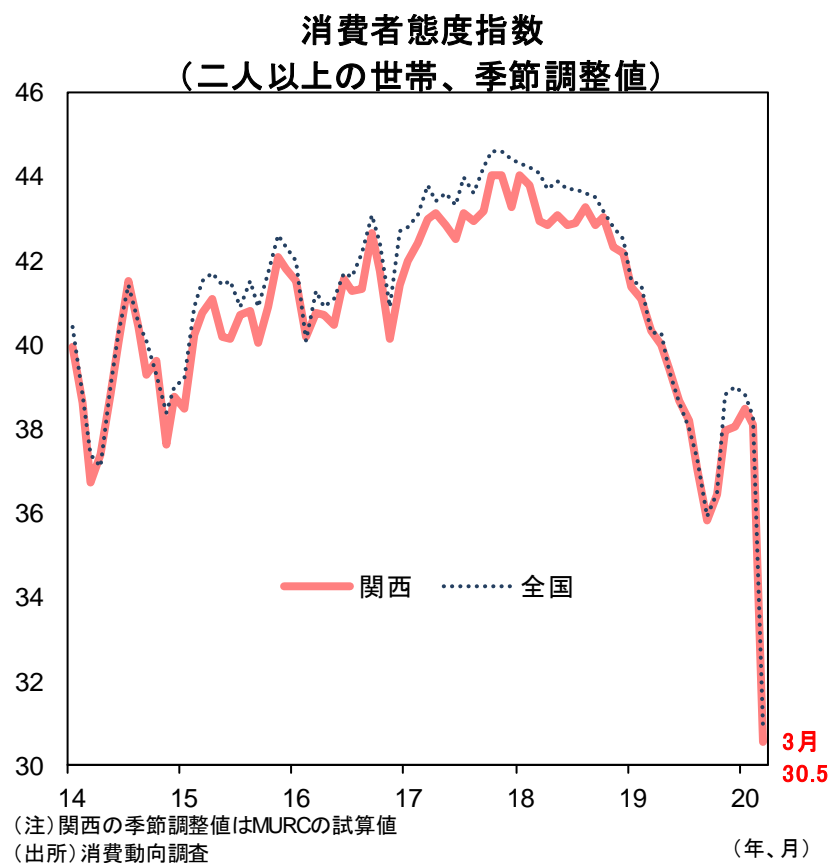
3月の百貨店売上は、コロナウイルス感染拡大の影響で前年比-39.9%と大幅減。うち免税売上は同-92.3%であった。





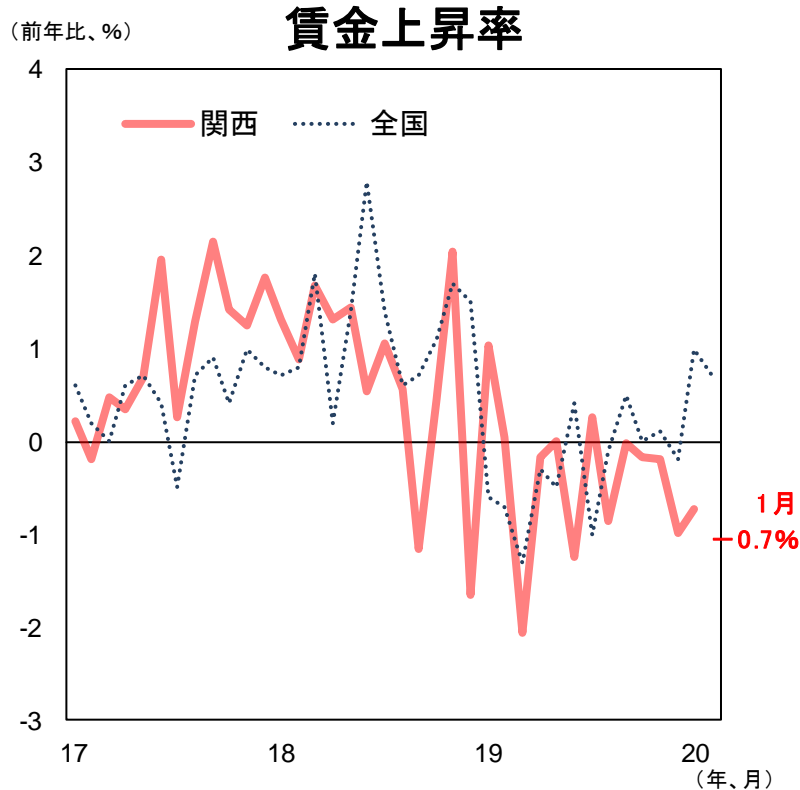
# マインド・景況感

消費者態度指数(季節調整値)は、コロナウイルス感染拡大により3月は30.5と大幅に低下(2月:38.1)。景気ウォッチャー調査の現状判断DI(季節調整値)は12.7となり、リーマンショック直後を下回り、数字のとれる2002年1月以来最低の水準となった。

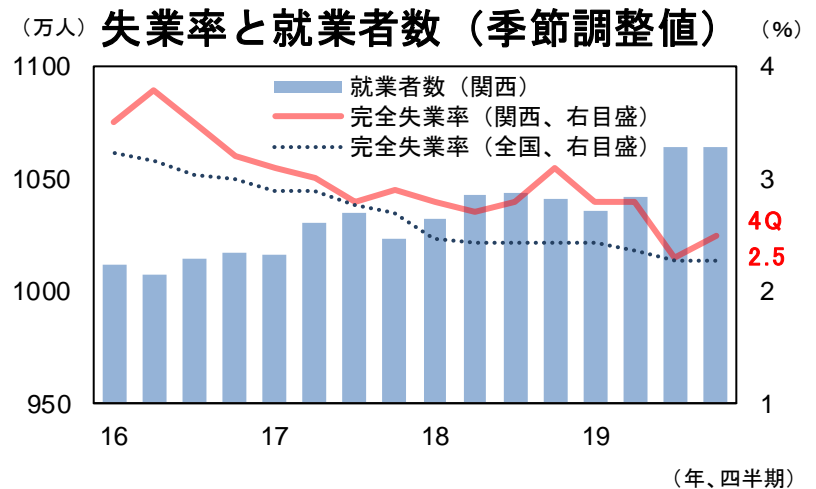
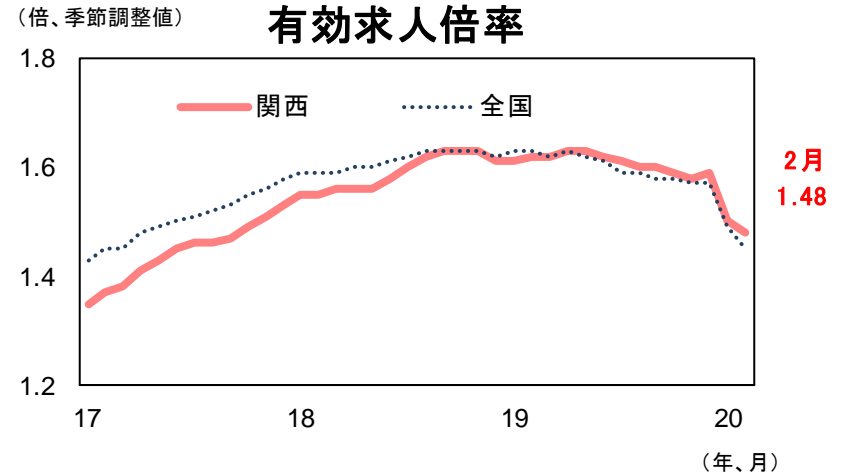


# 賃金・雇用

1月の名目賃金指数は、前年比-0.7%と6ヶ月連続で前年比減。賃金動向は弱含んでいる。  
2月の有効求人倍率は2ヶ月連続で低下。求人票の記載項目変更が引き続き影響した面もある。



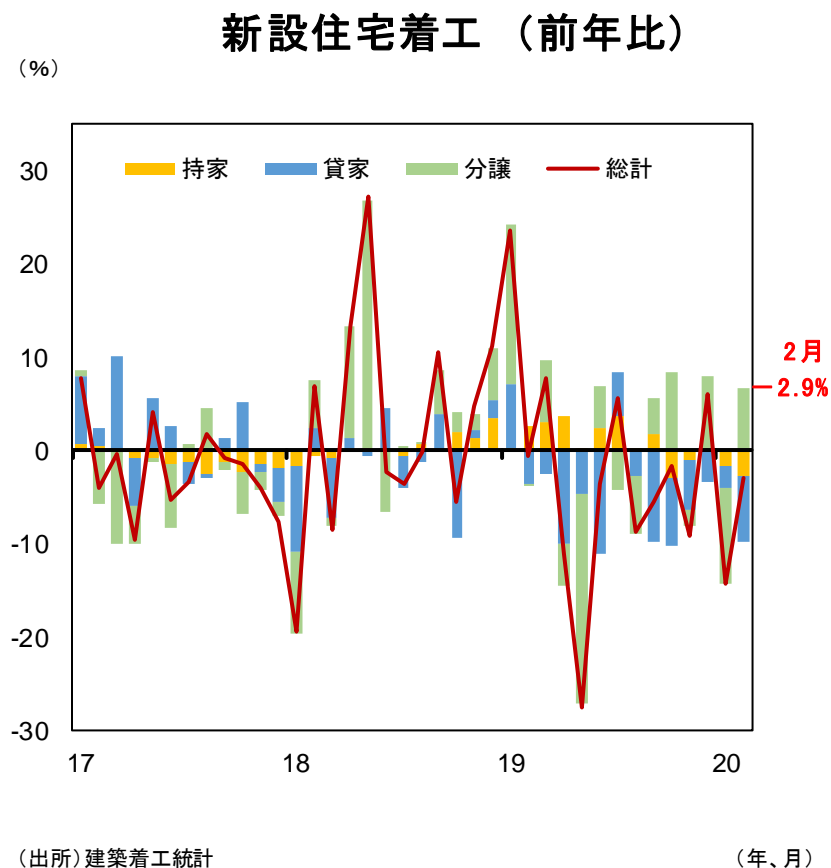
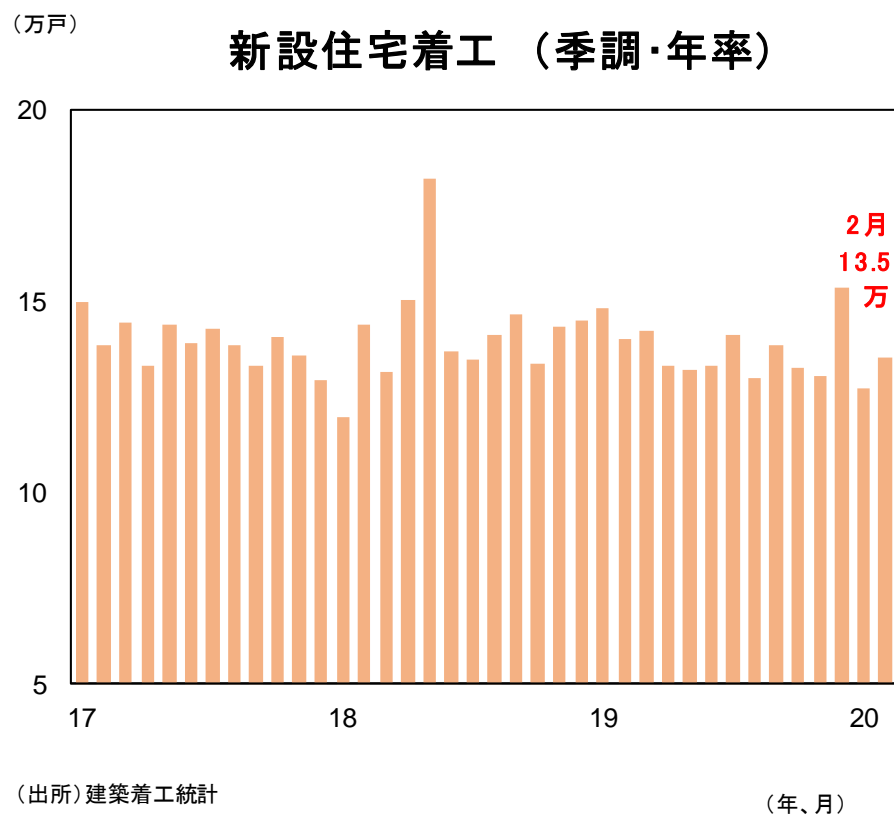
(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算  
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」



(出所) 総務省「労働力調査」

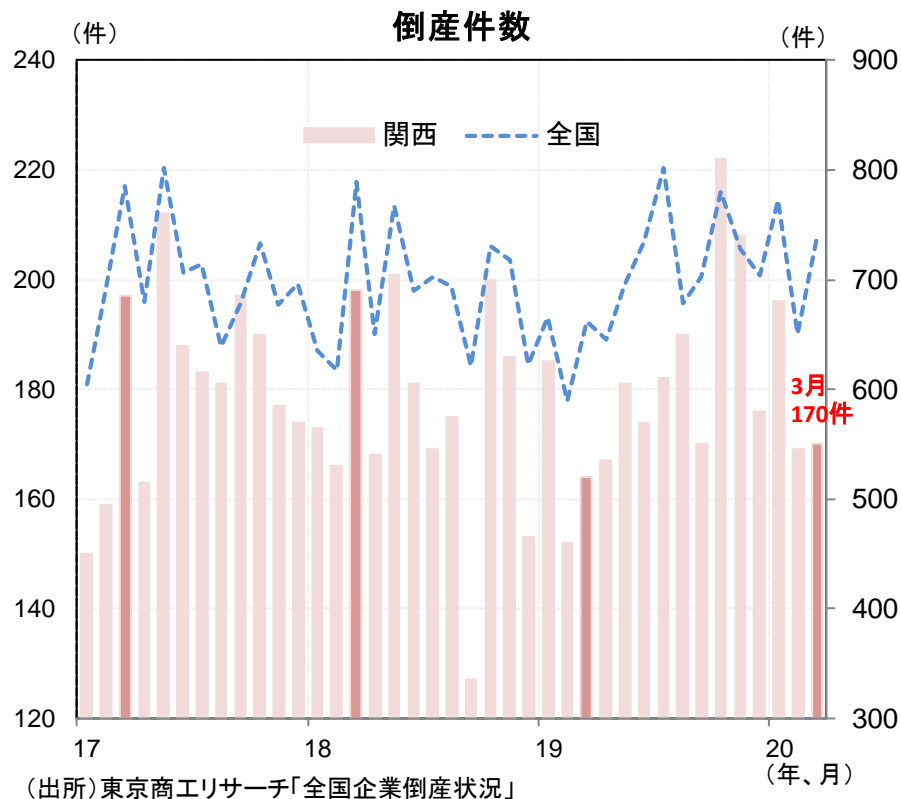
# 住宅投資

2月の住宅着工は季調・年率13.5万戸、均してみると横ばい圏で推移。原数値では前年比-2.9%。持家、貸家で減少したが、分譲は増加した。



# 倒産

倒産件数は横ばい圏で推移している。



# 公共投資

公共投資は増加基調で推移している。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください